

予算	款	項	目	決算書
	4	2	4	202 頁

目名
清掃センター費

事業名称
一般廃棄物処理事業

1. 概要

目的	一般廃棄物の適切な処理	対象	市民全般及び 臼杵市野津町市民
事業概要	<p>○一般廃棄物処理事業・・・一般廃棄物の適切な処理とごみの減量化 ・豊後大野市内1,236箇所、臼杵市野津町(旧野津町)261箇所に出された各種ごみ(可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ・有害ごみ・資源ごみ)を収集し、また、搬入されたごみを清掃センター施設において、焼却処理(可燃ごみ処理能力25t×2炉×16H/日)や分別後資源化処理(不燃・粗大ごみ処理能力22t×5H/日)するため事業を行った。</p> <p>【処理実績】 可燃ごみ(10,699t)、粗大ごみ(560t)、不燃ごみ(197t)、資源ごみ(1,677t)、プラスチック(374t) 処理合計13,507t (H26.3.31現在)</p> <p>○一般廃棄物処理施設整備事業・・・安定した一般廃棄物処理のための施設の修理及び更新 ・機器の修理・交換等を行い、施設の延命化を図り、廃棄物の適正な処理に努めた。</p>		

臨/経	細事業名称	事業内容(主な経費等)	予算現額(千円)	決算額(千円)	財源内訳				評価
					国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	一般廃棄物処理事業費	嘱託職員9名委託事業 委託料	330,654	306,593			147,876	158,717	3
臨時	一般廃棄物処理施設整備事業	工事請負費1件 工事請負費	2,079	2,079				2,079	3
計			332,733	308,672	0	0	147,876	160,796	

## 2. 指標設定

成果指標	指標名	ごみ処理の適正化、ごみの減量化	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	186kg/人・年			総合計画／後期基本計画において、基本施策(2-2-1)の目標としているため			
活動指標	指標	a 維持管理の適正化	b	ごみ分別の推進	c	外部委託の検討・見直し	d	
	数値	目標 経常経費の削減	目標	市民の意識啓発を図る	目標	収集運搬・運転業務の委託の検討・見直し	目標	

## 3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
ごみ処理の適正化、ごみの減量化	kg	204.5 kg	214.7 kg	209.4 kg
		90.9 %	86.0 %	88.8 %

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 維持管理の適正化	千円	298,159 千円	300,289 千円	308,672 千円
b ごみ分別の推進	回	12 回	12 回	15 回
		100.0 %	100.0 %	100.0 %
c 外部委託の検討・見直し		—	—	H26.5より収集業務の完全外部委託済み
d		—	—	—

## 4. 課題と対応

課題
人口は減少しているものごみの排出量は横ばいである。可燃ごみ中に含まれる紙類の割合が約40%であることから分別を強化し、ごみの焼却量を削減する必要がある。
対応（改善点等）
循環型社会の形成推進めざし、ごみの分別徹底を推進するとともに、リサイクル可能な紙類の分別強化を図る。

## 5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

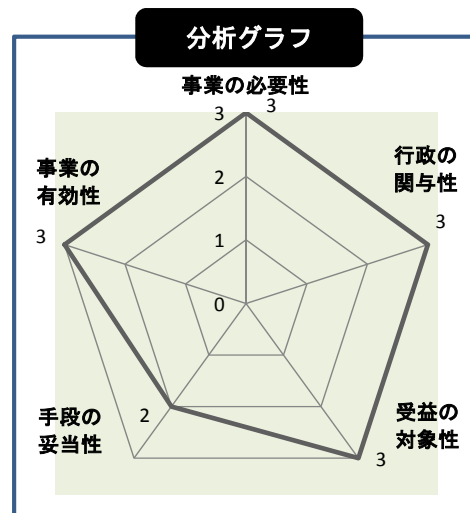
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
うち経常経費		298,159	300,289	306,447	439,261
財源内訳	国費		2,994		
	県費	35,668			
	市債				
	その他	156,301	153,494	147,876	170,909
	一般財源	219,422	186,242	160,796	288,788
うち経常		141,858	152,194	158,717	275,160
事業費に係る人件費		70,950	70,847	69,305	70,969
事業費に係る人役		16.50	16.50	15.90	16.00

## 6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
基幹的改良工事の実施中である。炉の運転コストは低下するが、炉の停止中の処理コストが必要となるため。

## 7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 事業の必要性が高い。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 法令等により、市が実施主体であることが定められている。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 広く市民に享受できている。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2 目的達成のために適切な手段であるが、今後、検討の余地がある。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 1人当たりのごみ量は増えており、ごみ減量化の推進は困難を伴うが、ごみ処理の適正化の取り組みができています。



## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	適切な処理とゴミの減量化に努め、経費節減を図ること。